



OCEFC NEWS

2004年10月1日号

Vol. 20

大川こども & 内科クリニック

インフルエンザワクチン10月4日開始

【予約受付中】 ワクチンは今年も水銀ゼロですー

昨年のインフルエンザの流行は中程度で疑い症例（検査症例）は610名、うちA型291名、B型11名でした。予防接種は3500名の方が受けられています。流行が中程度に終わった理由として1 昨年の大流行で抗体保有レベルが比較的高かったこと、インフルエンザワクチンを受けられた方が増加したことがあげられます。今年も昨年同様SARS（重症急性呼吸器症候群）や高病原性鳥インフルエンザのヒトへの感染が危惧されます。もちろん現在のワクチンではこれらを防ぐことは出来ませんが、インフルエンザ様症状の発生を防ぐことが出来れば無用な混乱や不必要な検査・治療を受けずに済みます。

乳児・妊婦さんも積極的に接種しましょう。

またインフルエンザの特効薬であるタミフルは1歳以下では原則的に使用できません。したがって1歳以下の乳児でも積極的に接種すべきでしょう。OCEFCでは昨年は10ヶ月以上の乳児に接種して来ました。しかし同じ不活化ワクチンであるDPTは3ヶ月から、B型肝炎ワクチンは2~3ヶ月から接種しております。インフルエンザを含む不活化ワクチンが乳児に危険であるデータはありません。今年のOCEFCでは希望されれば10ヶ月以下の乳児にも接種いたします。迷われる方はご相談ください。接種ラインの目安は3ヶ月以上でしょうか。妊娠されている方も同様です。妊娠3ヶ月以内では流産の危険性が否定できないため接種しないこともあ

りますが、原則としてどの時期でも接種は可能です。それどころか出産予定日が流行期（12月から3月）に当たる方は赤ちゃんをインフルエンザから守るためにも是非接種しましょう。

今年も65歳以上の高齢者には接種費用の一部公費負担があります。65歳以上の高齢者、高齢者をケアされている方、幼稚園・保育園・学校に勤められている方、慢性疾患（喘息・慢性肺疾患・高血圧・糖尿病）の方も必ず接種されてください。

OCEFCでは今年もインフルエンザワクチンは水銀の含まれていないものを標準仕様として用います。予防接種に含まれている水銀で自閉症になる可能性は否定されました。しかしすべてが解明されているわけではなく、水銀の使用はアメリカを中心として使用は制限されてきております。妊娠されている方、乳児はむろんのこと小児には是非採用したいワクチンです。昨年同様のワクチンを確保しております。12月は接種時の混雑が予想されます。10月からの早期の接種をお勧めします。10月に接種しても来春まで有効です。

休日・6時過ぎでも接種できます。

接種回数は今年も13歳未満で2回、13歳以上で1回です。なお旧来型の水銀低濃度含有ワクチンもご用意しております。成人の方には十分と思います。接種日は全診察時間内及び6時過ぎでも接種できます（6時にはおいでください）日曜・祝日も午前中接種いたします。

●水銀無添加ワクチン：1回目：3,000円

OCFC INFORMATION

感染症 だより

夏風邪猛威をふるう

今年もヘルパンギーナ、手足口病、滲出性咽頭炎・プール熱などの夏風邪が流行しました。ヘルパンギーナの患者さんは6月26名、7月73名、8月46名でした。2日間以内の発熱、水疱や白い潰瘍（アフター）が特徴でした。熱が下がってからのほうが咽頭痛は強いようで、水分摂取が大切です。少し冷やした水分を与えるのがコツです。ヘルパンギーナの原因ウイルスとして今年は3種類はやりました。6月、7月、8月とマメにかかった方もいらっしゃいます。手足口病は3ヶ月間で56名と例年の半分でした。お一人6月から手のひらの水泡がでたり引っ込んだりを繰り返し、持続感染を疑われる方がいらっしゃいました。現在精査中です。アデノウイルス感染症はプール熱、流行性角結膜炎、滲出性咽頭炎の原因ウイルスです。今年は1, 3, 5, 37型の4種類のウイルスが流行しました。2~3回と続けてアデノウイルスに罹患した方も珍しくはありませんでした。アデノウイルスは迅速診断法により確定診断が可能です。5日以上熱が続き、全身状態が悪いようであれば、細菌との混合感染を疑い、抗生剤の内服が必要になります。アデノウイルスをはじめ夏風邪群は8月の3週過ぎから急速に少なくなってきました。アデノウイルス感染症と確定診断された方は6月51名、7月65名、8月14名でした。

感染性胃腸炎

夏の嘔吐下痢症で注意しなければいけないのは食中毒をはじめとする細菌感染症です。血便、粘血便が出現したら要注意です。OCFCでは4人の方に0157の迅速診断と細菌検査をいたしました。0157の検査は全員陰性でした。細菌培養では2名から病原性大腸菌01が検出されましたが毒素は陰性でした。恐ろしい溶血性尿毒症症候群には進展しませんでした。細菌性腸炎でも症状が強くなければ抗生剤の使用は必要ありません。抗生剤の使用はかえって細菌をおなかの中に隠れさせてしまう原因ともなります。厚労省の感染症情報によれば焼肉から感染することが比較的多いようです。

夏のウイルス性腸炎はエコーウイルスやアデノウイルス、一部ノロウイルスが原因となります。6月65名、7月104名、8月56名でした。下痢には一般的に整腸剤のみで対応して初期に下痢止めを使用しないのが悪化させないポイントのようです。

その他の感染症

溶連菌は6月17名、7月5名、8月6名と徐々に減少してきましたが依然として注意が必要な疾患です。マイコプラズマ肺炎も8名、4名、2名と減少してきています。マイコプラズマ肺炎は肺炎といっても比較的元気で、お薬がきちんと内服できれば入院の必要はありません。OCFCでは抗生剤（クラリスやジスロマックなど）が服用できないお子さんへの内服援助を行っています。ご希望であれば看護婦がお手伝いします。またジスロマックでは胃チューブでの内服もおこないます。

風疹の疑い症例は6例見えました。全例抗体陰性で確定診断例はありませんでした。麻疹は成人1名で他院の受付の方です。OCFCでγグロブリンの筋肉注射と点滴を行いました。

うさぎのママ だより

うさぎのママは大好評です。6月91名、7月88名、8月107名でした。特に8月はご利用者が減少することを見込んでの人員配置をしたのですが、少ないところかご利用者が100名を超えました。9月以降は保育士さんを増員して定員6~8人で運営します。

キャンセルは20%ぐらいですので毎日1~2名はキャンセル待ちで入室できます。キャンセルされる方は他のご利用される方の為に朝7時30分までお願いいたします。それ以降のキャンセルについてはキャンセル料を頂きます。

OCFC ホームページ好評公開中 —OCFC メルマガ発刊—

OCFCのホームページが好評公開中です。公開3ヶ月で来訪者5,000人を越えています。毎日更新している診療情報には今流行中の病気・気になる病気の情報が満載です。皆様との交流コーナー、サロンうさぎの部屋もあります。各種書類のダウンロードや過去のOCFCニュースも1号から見ることも出来ます。7月からはOCFCメルマガが発刊されています。診療予定やアレルギー、免疫、感染症の情報が紹介されています。購読申し込みはホームページからどうぞ。

ホームページのアドレスはURL: <http://www.ocfc.jp>です。是非アクセスしてください。OCFCのホーム

病診連携

関連病院施設にお願いした患者さんは6月30名、7月20名、8月17名の67名でした。検査依頼は4例、外来診療は54症例、入院依頼は8症例でした。検査依頼は東京医科歯科大学での院長の外来に尿管症と易感染性2名の3名、東邦大学放射線科に頭痛の精査(MRI)1名 お願いしました。入院依頼の8名のうち1名は急性心筋梗塞で東邦大学心臓内科受診、直ちに心臓集中治療室(CCU)に入院されました。8月に退院されました。その他荏原病院内科に成人の肺炎を紹介しております。小児の入院は東京医科歯科大学小児科に頸部リンパ節炎、フォロー4徴をお願いしました。先天性心臓奇形フォロー4徴は即日診断後榊原記念病院にて手術しております。その他東邦大学小児科に川崎病と肺炎、日赤医療センター・社保蒲田総合病院に小児の肺炎を紹介しています。外来紹介では今回はそけいヘルニアが4例で東京医科歯科大学、東邦大学、昭和大学の小児外科にお願いしました。東京医科歯科大学では日帰り手術を行っています。東邦大学、日赤医療センター、昭和大学歯学部、および近隣の皮膚科、眼科、耳鼻科に紹介しております。詳しくはホームページをご覧ください。

処置室 コーナー

処置室にいらっしゃった方は毎月70名、点滴は3ヶ月間で60名の方に行っています。成人の扁桃炎、小児では嘔吐下痢による脱水の方に行っています。夏風邪の流行もあってかアデノウイルスの検査は増加して250名に行いましたが、一方溶連菌の検査は減少して75名に減少しております。吸入や採血検査もこの時期は一段落しております。便培養の方が増加しましたが陽性の方は2名でいずれも病原性大腸菌O1型、ペロ毒素陰性で大事には至りませんでした。

院長のサイエンティフィックアクティビティ(Scientific activities)

6月5日には小児ITP治療研究会の世話人として参加。確立した治療法を全国の小児科医に紹介しております。7月18、19日は全国病児保育研究会に保育士、看護師と参加しました。7月には東邦大学と医科歯科大学の医学部の学生の実習がありました。ご協力いただきありがとうございます。講演は8月には和光堂の研修会、9月14日には新蒲田児童館で笑顔で子育てと題して講演、10月5日は東京医科歯科大学看護学科で講義をします。現在院長がかいた論文の別冊をお分けしています。受付までお申し込みください。

診療時間

栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
大田区の各種健康診査は火・木・金の午後2:00~4:00にお越し下さい。検査希望の方は代表電話にて直接予約して下さい。

曜日	8:30~12:00	14:00~16:00	16:00~18:00
月	小児科・内科(院長)	小児科・内科(院長)	
火	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
水	小児科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科(富沢)
	内科・循環器(上田)	1・3水 じっくり外来(院長)	
木	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
金	小児科・内科(院長)	乳健・予接・ア・慢	小児科・内科(院長)
土	小児科・内科(院長)	乳健・予接(1時~2時)	小児科(荒木:2時~3時)
	1・3・5土 小児科・循環器(佐々木)	1土 神経発達(荒木1時~3時)	
	2・4土 アレルギー(大柴)	じっくり外来(院長:不定期)	
日曜・祝日	9時~12時 休 日診療・予接(院長・荒木・佐々木)		

乳健:乳児健診、予接:予防接種、ア:アレルギー疾患 慢:慢性疾患 栄養相談の予約:代表電話で直接予約下さい。
●毎週日曜日午前予防接種しております(要予約) ●土曜日のじっくり外来の予定は受付またはホームページでご確認ください。

■電話・インターネット予約サービスコード

項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード	項目	サービスコード
小児科一般	11#	乳幼児健診	16#	3種混合	21#	水痘	26#
内科一般	12#	健康診断	17#	2種混合	22#	おたふくかぜ	27#
アレルギー/慢性疾患	13#	インフルエンザ	19#	麻疹	23#	日本脳炎	28#
隔離感染症	14#	確認	20#	風疹	24#	その他	29#
予防接種	15#	取消	30#	インフルエンザ	25#		

予約の空き情報は40#でご案内種混合ます。予防接種(15#)を押した方はさらにサービスコードで希望される項目を指定して下さい。サービスコードの確認を、よろしければ0# 誤ってれば1#で行って下さい。

院内設備・機器

院内設備:隔離感染症室、電話/インターネット自動予約機(24時間対応)、空気清浄装置(臓器移植にも対応できる)(3台)オゾン空気清浄・防臭装置(2台)電解水発生装置、消毒用専用スプレー
検査機器:レントゲン装置、自動解析装置付心電計、自動血球分析器、CRP/ASO測定機、自動検尿器、電子スパイロメーター、血糖測定器、経皮酸素分圧モニター、24時間酸素分圧モニター、聴力検査機器、心電図モニター、チンパノメトリー、アトムネオテーブル

患者さん 質問箱



Q うちの保育園では病児保育を利用するというと病気のときぐらい自分でみなさいといわれて、あまりいい顔をされません。どうしたらいいでしょうか。

(わが子と保育士さんを見比べて思わずため息が出た母よ)

A いろいろな意見があるのは大変よいことです。是非皆様でよく話し合っていたきたいと思います。ここでは私がどうして病児保育室を開設したかというお話をします。保育士さんとの話し合いのときに参考にしてください。

病児保育は国の定めた制度であること。

病児保育は国が定めた新エンゼルプランによる制度であり、保育園の設立意義と同じものです。これは働くご両親の育児支援のひとつです。元気なときは保育園、病気になったら病児保育、家庭環境は様々でも子供にとってよりよい育児空間を提供するのが目的です。

病児保育は誰のため。

勿論病児自身のためです。働くお母さんが病気のわが子を見るために仕事を休んだり、祖母に頼んだりするのもよいでしょう。でもそのような事が出来ない場合もあります。仕事を失えば生活自体が変わってしまうときもあるでしょう。その時お母さんに代わって病児を保育する制度があればお母さんも余裕を持って仕事ができ、また仕事が終わったら育児に専念できるのです。余裕を持つことは育児の上でも大切です。母親にいいことは結局子供にとってもいいことなのです。

無用な入院を避けよう。

入院する程重症ではないけれども、経験のある看護師がもう少し見てあげたい方もいます。十分な観察のもとに、適切な医療を提供したい。しかし現在の医療体制ではそういった場合でも入院して様子を見ることしかできません。私は病児に対するデイケアサービスとしても病児保育を位置づけています。デイケアですめば夜はお母さんの胸元で眠ることもできるのです。そしてそれは医療費の軽減にもつながるのです。

病母（父）児保育

少子化が進んでいます。小さいころ兄弟の看病に参加していなければ親になったときにいきなり病気の子供を見ることになります。ご両親によってはどう看病していいかわからないときもあります。そのとき病児保育は病母（父）児保育となってお母さん・お父さんも一緒になって子供を見る環境を作りたいと思っています。今すぐには余裕がないかもしれませんが。でも近い将来の方向性はここにも

医療法人社団オー・シー・エフ・シー (OCFC) 会

OCFC

Okawa Children & Family Clinic

大川こども&内科クリニック

小児科・内科・アレルギー科(併設 病児保育室 うさぎのママ)

東京都大田区多摩川1-6-16

院長 大川 洋二

診療時間：月～金 午前 8：30～12：00 午後 2：00～6：00

土 午前 8：30～12：00 午後 1：00～3：00

(日曜・祝日休診) 駐車場五台あり

予約
専用

03-3758-0099

代表
番号

03-3758-0920

E-mail: info@ocfc.jp URL: http://www.ocfc.jp

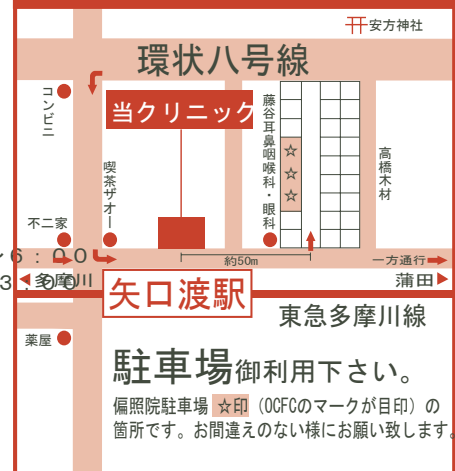
うさぎのママ お問い合わせ

直通
電話

03-3758-0066

E-mail: usagimama@ocfc.jp

案内図



東急多摩川線矢口渡駅前